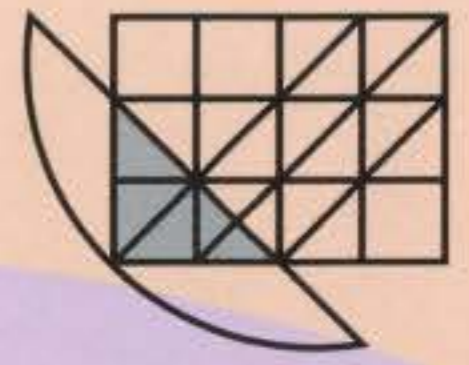


# 博物館だより



和歌山県立博物館

WAKAYAMA PREFECTURAL MUSEUM

No.9

2004.3.10



重要文化財・南蛮胴具足（紀州東照宮蔵）

第1期 徳川頼宣と「御付」の家臣たち



重要文化財・高野枡（かつらぎ町柏木区蔵）

第3期 見る・読む・歩く荘園

## きのくにの歴史と文化

開館10周年記念特別展

平成16年  
4月24日(土)～  
9月23日(木・祝)



重要文化財・十一面観音立像（円満寺蔵）

第2期 宗教文化の諸相



重要文化財・群猿図屏風（部分）長沢芦雪筆（草堂寺蔵）

第4期 近世の芸術と学問

世界遺産登録記念特別展 空海と高野山

平成16年10月9日(土)～11月23日(火・祝)

世界遺産登録記念特別展

# 空海と高野山

Treasures of a Sacred Mountain · Kukai and Mount Koya

10月9日(土)～11月23日(火・祝)

弘法大師空海(七七四～八三五)は、延暦二十三年(八〇四)に密教を求めて中国・唐に渡り、帰国後の弘仁七年(八一六)に高野山を真言密教の拠点として定めました。その後、現在にいたるまで、高野山は人々のあつい信仰のもと、密教文化をはじめとして、多様な仏教美術が集積し、守り伝えられてきました。

このたびの特別展は、高野山を含む地域が、「紀伊山地の霊場と参詣道」として、ユネスコの世界遺産に登録されることを記念して、かつてない規模で高野山上の至宝を一堂に展示し、その全貌を紹介するものです。国宝21件を含む、約140件の至宝を、この機会にぜひご覧下さい。

## 弘法大師入唐一二〇〇年記念

### 聖なる山の至宝、空前の大公開。



重要文化財 金銅三鈷杵(飛行三鈷杵)

平安時代 金剛峯寺蔵

空海が唐からの帰途、密教の拠点を選ぶために投じたところ、高野山へ飛んでいったという伝承を持つ。



重要文化財 大日如来坐像

平安時代 金剛峯寺蔵

空海の甥・真然の造立と伝えられる。壇上伽藍西塔に安置されていた。



国宝 諸尊仏龕

中国・唐時代 金剛峯寺蔵

空海が唐から持ち帰った、一材の白檀から彫りだした精緻な仏像群。



国宝 仏涅槃図

平安時代 金剛峯寺蔵

釈迦が亡くなった時の情景を表現する。わが国最古の涅槃図にして最高傑作とされる。

(期間中、常設展示は行っていません)



国宝 聾聵指帰<部分>

平安時代 金剛峯寺蔵

入唐以前に仏教の優越を論述した、若き日の貴重な空海自筆の書巻。



国宝 八大童子立像のうち制多伽童子(運慶作)

鎌倉時代 金剛峯寺蔵

運慶とその工房による、写実表現の傑作。全8躯およびその本尊・不動堂の不動明王坐像(重要文化財)をあわせて展示。

開館10周年記念特別展

きのくにの  
歴史と文化

4月24日(土)～9月23日(木・祝)

県立博物館は平成6年7月に新博物館が開館し、平成16年に10周年を迎えます。開館以来、和歌山県ゆかりの文化財を調査・研究し、県内外の多くの方々に展示・公開してきました。また、和歌山県の歴史や文化にかかわる絵画・工芸・典籍・古文書などあらゆる資料の収集活動を行うとともに、県内の寺社などが所蔵する指定文化財などの寄託も受けました。こうした経緯をふまえ、開館10周年を記念して、4月24日(土)から9月23日(木・祝)までを4期に分け、館藏品や寄託品を中心にして、きのくに(和歌山)が育んできた豊かな歴史と文化を紹介する開館10周年記念特別展「きのくにの歴史と文化」を開催します。なお、常設展示も行っています。

第1期  
徳川頼宣と「御付」の家臣たち

4月24日(土)～5月30日(日)

元和五年(一六一九)、徳川家康の第十子である徳川頼宣が紀伊国に入国し、御三家の一つである紀伊藩が誕生しました。この展示では、紀伊徳川家ゆかりの紀州東照宮や長保寺の所藏品を中心に、家康と頼宣、さらに家康から頼宣に付けられた家臣にかかわる資料を展示します。この展示を通して、十七世紀という時代を考えてみたいと思います。

●主な展示品

重要文化財・南蛮銅具足(紀州東照宮蔵)  
徳川家系譜(長保寺蔵)  
県指定・金唐革陣羽織  
(伝徳川家康所用、渥美家伝来(紀州東照宮蔵))



金唐革陣羽織

第2期  
宗教文化の諸相

6月5日(土)～7月4日(日)

和歌山県内には古くからの寺院・神社が各地に分布し、関係する多くの文化財も残されてきました。この展示では人々の心を支えてきた信仰のかたちを、「高野山と熊野」・「きのくにの仏教美術」・「道成寺縁起」・「大般若経の世界」の四つの視点からご覧いただけます。

●主な展示品

重要文化財・十二面観音立像(円満寺蔵)  
重要文化財・地藏菩薩坐像(歡喜寺蔵)  
銅製経筒(保元元年)(熊野那智大社蔵)  
大般若経(紀州池田庄金剛寺常住印)



地藏菩薩坐像

第3期  
見る・読む・歩く荘園

7月10日(土)～8月15日(日)

和歌山県内には、高野山・粉河寺・根来

寺などの宗教勢力や、貴族たちの領有する「荘園」がきわめて多く存在していました。近年、この「荘園」に関する調査・研究が進み、新しい資料も発見されています。ここではそうした新しい成果を紹介しながら、人々の生活の舞台であった荘園の実態に迫ります。

●主な展示品

重要文化財・紀伊国株田荘絵図(宝来山神社蔵)  
重要文化財・高野枿(かつらぎ町柏木区蔵)  
県指定・隅田家文書(個人蔵)  
官省符荘百姓等申状(個人蔵)



官省符荘百姓等申状

第4期  
近世の芸術と学問

8月21日(土)～9月23日(木・祝)

江戸時代の和歌山では、紀伊徳川家の支配のもと、さまざまな芸術や学問が開かれました。それらの中から、祇園南海や長沢芦雪の絵画、本居宣長をはじめとする国学関係の資料、江戸時代後期に和歌山で焼かれた陶磁器などを中心に、江戸時代の文化を紹介いたします。

●主な展示品

重要文化財・群猿図屏風 長沢芦雪筆(草堂寺蔵)  
蘭図 祇園南海筆(当館蔵)  
本居宣長像(甲本) 通信筆(当館蔵)  
置上菊香合 永楽保全作(当館蔵)



蘭図 祇園南海筆

館藏品コーナー⑨

瑞芝焼 青磁東方朔桃耳花生

1口、江戸時代後期、口径22.4cm、高さ44.2cm

瑞芝焼は、鈴丸焼とも呼ばれ、享和元年(一八〇二)に和歌山城下の鈴丸の地で坂上重次郎という人物が窯を開いたのがはじまりとされています。創業当初は民営でしたが、紀伊藩の十代藩主徳川治宝がその色彩を愛でて「瑞芝堂」と命名し、次第に藩の御用窯的な性格を帯びるようになりました。紀州三大窯の一つとして、また、質の高い青磁を焼いたことで知られています。

ここに紹介するのは、瑞芝焼の中でも特に優れた作品で、深みのある淡緑色の青磁釉が美しい大型の花生です。胴の正面と背面には、中国前漢時代の仙人で西王母から桃の実を盗み食べて長寿を保ったとされる東方朔を浮彫りであらわし、左右には桃の実と葉をかたどった耳(把手)をつけています。口の周囲や胴の下にめぐらされている文様は、中国の青銅器などに見られる文様を簡略化したものです。精巧な手彫りで表現されたこれらの浮彫りや文様からは、高い技術が窺われます。底には「南紀瑞芝堂製」の印が捺され、また、箱書には摂津国西成郡(現在の大阪市浪速区)にある願泉寺の英龍が天保九年(一八三八)に紀伊徳川家から拝領したことが記されています。質の高い青磁が、箱書の天保九年以前に既に作られていたことを示す貴重な事例です。なお、この作品は開館10周年記念特別展の第4期「近世の芸術と学問」で展示します。



# 平成16年度のコーナー展

写真パネル展

## きのくにの国宝

平成16年12月7日(火)～12月26日(日)

和歌山県内には、たくさん文化財が残されています。この展示では、県内にあ  
る国宝のいくつかを、写真パネルで紹介し  
ます。

## きのくにを祝う

新春と吉祥の造形

平成17年1月8日(土)～2月6日(日)

絵画や工芸品は現在では歴史を物語る  
貴重な文化財ですが、もともとは室内や  
生活をいどころ調度品でもありました。  
それらのなかには、吉祥を喜び、おめでたい  
ことを祝う人々の願いや思いを造形にし  
たものが少なくありません。新春の時期  
に合わせ、収蔵品のなかから、吉祥にまつ  
わる資料を紹介します。



羽子板(徳川豊姫所用)

## むかしの絵はがき(紀中編)

喜多村進コレクションを中心に

平成17年2月12日(土)～3月13日(日)

戦前・戦後にかけて、郷土史家として和  
歌山で活躍した喜多村進が収集したコレ  
クションのなかから、紀中地方の景観を写  
した絵はがきを、ご覧いただきます。あわせ

展覧会名・日程などはいずれも予定です。  
詳しくは、博物館学芸課までお問い合わせ下さい。

て、絵はがきと同じ場所から撮影した現  
在の風景や紀中地域に関連する資料も展  
示します。



紀州有田名所 辰ヶ浜打瀬船の帰帆

## いくさの風景

平成17年3月19日(土)～4月17日(日)

収蔵品のなかから、「いくさ」をテーマに  
展示を行います。「いくさ」から「戦争」へ  
と展開した戦いの歴史の足跡を、屏風・絵  
図・刀剣・写真資料などを通して紹介し、  
描かれた「いくさの風景」のなかから、人々  
がそこに込めた思いを探ります。



川中島合戦図屏風(部分)

# お知らせ

◎開館10周年記念特別展に関連して、  
平成16年4月25日(日)に講演会「南  
蛮胴具足」(講師 東京国立博物館主  
任研究員 池田宏氏)を、近代美術館  
(博物館となり)AVホールで行います。  
聴講をご希望される方は、博物館ま  
で直接電話(073-436-867  
0)をいただくか、もしくは住所・氏名・  
連絡先を明記のうえ、FAX(073  
-423-2467)でお申し込み下  
さい。定員(120人)になり次第、締  
め切らせていただきます。

◎博物館では、ご来館の皆様への展示  
鑑賞の一助として、「いつでも音声ガ  
イド」(専用機器による展示解説)  
を導入し、常設展・特別展・コーナ  
ー展の解説を行っています。「いつで  
も音声ガイド」は、シナリオ・録音編  
集などすべて博物館職員手作りに  
よる音声ガイドです。ナレーションの  
一部は和歌山県文化国際課(常設展・  
英語版)、和歌山大学ミュージアム、ボ  
ランティア(コーナー展)の協力を得  
ています。利用料金は、一般(65歳以  
上を含む)・大学生200円、高校生  
以下100円となっています。但し、  
「空海と高野山」展の音声ガイドは、  
別料金となります。

◎学校行事・授業の一環でご利用の  
場合、あらかじめご連絡下さい。博  
物館の活用方法(展示見学、生活科・  
社会科の学習、総合的な学習など)  
について、ご相談させていただきます。

## 博物館の利用案内

開館時間 午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)  
休館日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合はその翌日)  
年末年始および展示替え期間中は  
臨時に休館します。

詳しくは博物館までお問い合わせ下さい。  
駐車場 97台(館利用者は割引あり)  
大型バスの駐車スペースもありますので、  
お問い合わせ下さい。

## 入館料

<10周年記念特別展> (常設展示も行っています)

	一般	大学生	高校生以下
個人	400円	250円	無料
団体	330円	200円	無料

<「空海と高野山」展> (常設展示は行っていません)

	一般	大学生	高校生以下
個人	1,000円	700円	無料
団体	800円	500円	無料

<常設展(コーナー展)>

	一般	大学生	高校生以下
個人	260円	150円	無料
団体	210円	120円	無料

※65歳以上の方、障害者の方は無料です。  
(受付で証明書等を提示して下さい。)

## 和歌山県立博物館友の会

### ◆平成16年度会員募集のお知らせ

県立博物館では、友の会会員を募集しています。常設展  
(コーナー展)・特別展を無料で鑑賞できるほか、文化財鑑  
賞バスツアーや七夕まつり、こどもくらぶなどの行事や様々  
な特典があります。年会費は一般会員が3,000円、学生  
会費が500円、賛助会員が6,000円です。  
申し込み・問い合わせは、和歌山県立博物館友の会事務  
局までお願いします。(☎073-436-8684)

## 和歌山県立博物館 博物館だより 第9号

発行日 平成16年(2004)3月10日  
編集 和歌山県立博物館  
〒640-8137 和歌山市吹上二丁目4番14号  
TEL(073)436-8670  
http://www.hakubutu.wakayama-c.ed.jp